

ストーリー中心型カリキュラム「オリジナル SCC 企画書」チェックリスト使用の効果

Effects of using "Original SCC Proposals" checklists

竹岡 篤永^{*1,*4}・根本 淳子^{*2,*4}・高橋 暁子^{*3,*4}・鈴木 克明^{*4}

高知大学^{*1}・愛媛大学^{*2}・徳島大学^{*3}・熊本大学大学院教授システム学専攻^{*4}

^{*1,*4}Atsue TAKEOKA, ^{*2,*4}Junko NEMOTO, ^{*3,*4}Akiko TAKAHASHI and ^{*4}Katsuaki SUZUKI

^{*1}Kochi University, ^{*2}Ehime University, ^{*3}Tokushima University,

^{*4}Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

Email: atakeoka@kochi-u.ac.jp

あらまし：ストーリー中心型カリキュラム（SCC）の設計手法を学ぶ科目の課題レポート「オリジナル SCC 企画書」の質向上のため、（１）チェックリストと（２）チェックポイント（“落とし穴”）を作成した。2013 年度は（１）を、2014 年度は改訂した（１）と（２）を提供した。提出レポートを検証したところ、（１）（２）の効果が示唆された。また、依然として、ストーリー学習の集大成とすべきミッションとシナリオ展開への対応の不足がわかった。

キーワード：GBS、ストーリー中心型カリキュラム（SCC）、e ラーニング、成人学習

1. はじめに

熊本大学大学院教授システム学専攻は、e ラーニングによる e ラーニング専門家の養成を目的とし、積極的に新しい教育実践に取り組んでいる。その一つに、「ストーリー中心型カリキュラム（SCC）」がある（2008 年より提供）。SCC は、GBS (Goal-Based Scenarios) を踏襲しながら作り込まないことで拡張可能性を確保しており、フィードバックを人間が行う、既存のツールや資料を用いる、チームでの作業が学習に含まれるなどの特徴がある。2010 年度からはストーリーに沿って必修科目群を学ぶ科目に加え、SCC の設計手法を学ぶ科目も提供している。

熊大 SCC のストーリーは次の通りである。「あなたは e ラーニングを主力商品とする教育ベンダー MTM 社の中途社員である。上司の中村部長からの毎週の業務指示・教材設計・e ラーニングシステム操作・知的財産権の調査などに応えながら、半年後にはそれら業務の集大成である業務支援パッケージの作成を目指せ。」学習者はこのストーリーに沿って学習した後、SCC の設計手法へと進む。

本論は、SCC 設計手法を学ぶ科目の課題「オリジナル SCC 企画書」の質向上を目指して作成したチェックリストとチェックポイント（“落とし穴”）の効果について、レポートの分析を通じて検証した結果を報告する。

2. 課題「オリジナル SCC 企画書」

2.1 課題の概要

SCC は GBS の 7 つの要素を持つ。上述の熊大 SCC を GBS の 7 要素に当てはめたものが図 1 である。課題「オリジナル SCC 企画書」には、GBS 7 要素を盛り込み、それぞれの要素を企画書が理解できる程度に具体的に展開したものを求めた。

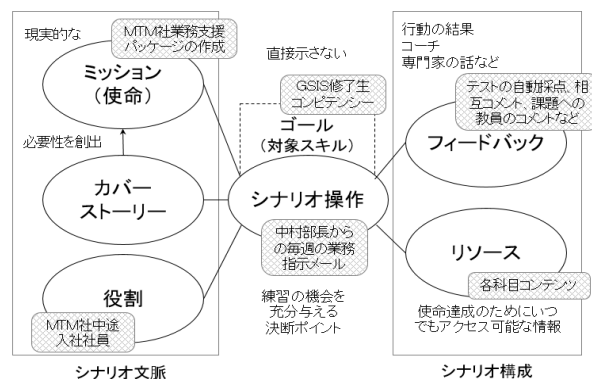


図 1 GBS 理論の 7 要素⁽¹⁾に熊大 SCC 要素を付加

2.2 チェックリストと“落とし穴”の概要

2010 年度から 2012 年度は、課題提示のみを行った。これら年度に提出されたレポートを分析して作成したチェックリストを 2013 年度に提供した⁽²⁾。2014 年度は、改訂チェックリストと陥りやすいポイントに具体例を付加した“落とし穴”を提供した⁽³⁾。

2013 年度版チェックリストは、「開発の背景」「カバーストーリー」「シナリオ展開の概略」「その他」の 4 つの括り下の合計 25 個をチェック項目とした。2014 年度改訂版ではこれら 4 つの括りを設問に沿ってチェックできるよう整理した。また、1 項目に複数あったチェック点を 1 項目 1 つに改め、多くの人が上手く書けない「ミッション」のチェック項目を 2 から 4 へ増やすなど合計 29 個をチェック項目とした。

3. 課題レポートの分析結果

3.1 課題レポートの成績比較

2013 年度、2014 年度とも提出されたレポートはそれぞれ 5 件であった。これらの成績を 2012 年度（9 件）と比較したのが、表 1 である。表 1 の「よ

い群」は 80 点以上のもの、「最低限群」は 60～79 点のものである。

表 1 2012～2014 年度の成績比較

	2012 年度	2013 年度	2014 年度
よい群	3	3	3
最低限群	6	2	2

件数は少ないが、チェックリストまたはチェックリスト・“落とし穴”の併用で、課題レポートの質は向上したと言えるだろう。

3.2 チェックリストのチェックの確からしさ

レポート作成者は作成した課題レポートと自己チェック済みのチェックリストの両方を提出する。提出されたレポートを見ながら第一筆者がチェックリストを用いてチェックすることにより、チェックの確からしさを検証した（2013 年度・2014 年度の合計 10 のレポート分）、筆者と提出者とで異なったチェックを付けた数の平均値は、「よい群（6 件）」「最低限群（4 件）」がそれぞれ、1.0 (SD=1.26) と 10.75 (SD=3.86) であった。つまり、「よい群」ではチェックの一致が高かったのに対し、「最低限群」では一致が低かった。

これは、「よい群」ではうまく自己チェックができていたのに対し、「最低限群」では、うまく自己チェックできていない可能性を示唆する。2013 年度では、学習目標、ミッション、シナリオ展開に、2014 年度では、ミッション、シナリオ展開に不一致が多かった。例えば、「命の灯火を消さないこと」という具体的なイメージが難しいミッションの場合も「具体的なミッションが明示されている」を「OK」としていた。

3.3 “落とし穴”から見た課題レポート

2013 年度と 2014 年度の違いを詳しく調べるため、“落とし穴”の 8 項目からレポートを分析した。表 2 は第一筆者による分析結果である。ただし、学習目標は 1 つとし、2 は欠番とした。

表 2 “落とし穴”から見た課題レポート

	項目	2013 年度		2014 年度	
		OK	NG	OK	NG
1	ゴール（学習目標）は明示されているか	1	4	5	0
3	ミッションが書かれているか	3	2	3	2
4	ミッションは具体的にイメージできるものか	3	2	3	2
5	シナリオ展開は学習目標の羅列ではないか	3	2	3	2
6	シナリオ展開に具体的な行動が書かれているか	2	3	4	1
7	リソース・フィードバックが書かれているか	5	0	5	0
8	SCC 導入の妥当性は十分か	5	0	5	0

「ゴール（学習目標）」の記述にもっとも大きな違いが見られた（項目 1）。2013 年度版チェックリストでは「学習目標は明確か／評価方法が書かれているか」であったものを、2014 年度には「ゴール（学習目標）は明確に書かれているか」「ゴール（学習目標）の評価方法は明確に書かれているか」の 2 つに分けた。また、“落とし穴”にも「ゴール（学習目標）として自分自身の達成目標を挙げてしまう」「ゴール（学習目標）が暗示にとどまる」の 2 つを挙げた。この結果、2014 年度では「クライアントのニーズに応えた法人向け訪日研修プログラムの旅程とスケジュール表作成」「症例の典型的な各種リスクの対処方法を具体的に説明できるようになること」などの具体的なゴールが記述できたと考えられる。

また、シナリオ展開にも違いがあった（項目 6）。シナリオ展開のすべてに具体的な行動がかかれたわけではなかったが、2014 年度には「患者さんの検査を行うにあたって確認すること、気をつけることを自分で整理する」「引き継ぎ時に持参するための担当施設／Dr.情報シートを作成してください」などの具体的な行動が書かれた。

4. まとめ

SCC の設計手法を学ぶ科目の課題レポート「オリジナル SCC 企画書」の質向上のために作成したチェックリストと“落とし穴”の効果を検証した。チェックリストのみ、または両方の提供によるレポートの質向上が確かめられた。また、チェック項目の増加と例示により、特に「ゴール（学習目標）」が明確に書かれるようになった。シナリオ展開の具体行動は小さな学習目標にあたるため、これらを併せると、SCC の教材設計としての側面に向上が見られたと考えられるだろう。しかし、ミッションについては期待したほどの効果が見られなかった。教えることをストーリーとしてうまく展開するためには、さらに支援が必要である。また、最低限群の自己チェックの信頼性向上も今後の検討課題である。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 25330409 の助成を受けた。

参考文献

- (1) 根本淳子, 鈴木克明: ゴールベースシナリオ (GBS) 理論の適応度チェックリストの開発, 日本教育工学会論文誌, 29(3), pp.309-318 (2005)
- (2) 竹岡篤永, 根本淳子, 高橋暁子, 柴田喜幸, 鈴木克明: ストーリー中心型カリキュラム「オリジナル SCC 設計書」の分析と設計書作成支援チェックリストの試作, 日本教育工学会第 29 回全国大会発表論文集, pp.377-378 (2013)
- (3) 竹岡篤永, 根本淳子, 高橋暁子, 柴田喜幸, 鈴木克明: ストーリー中心型カリキュラム「オリジナル SCC 企画書」提出課題の分析に基づく作成支援ポイントの整理, 日本教育工学会研究報告集, JSET14-1, pp.123-128 (2014)